
AM 4時はまだ昨日さ

L i t a l y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

AM4時はまだ昨日さ

【Nコード】

N1896P

【作者名】

Litaly

【あらすじ】

藍色の空にオレンジが落ちたら、その瞬間が今日の始まりだ。

朝日が昇る直前の感じってさ、好きなんだ。

俺は高校2年くらいの頃から新聞配達をしてて、一時期やめて、数年他の仕事を転々としたりもしてたんだけど、やっぱりうまくいなくて、で、また朝刊配る生活に戻って、今に至る。
今の生活をはじめて丁度5年くらい。

朝日を拜んだ回数で人生の価値が決まるなら、俺はかなり上位に食い込めると思うよ。

無論そんなもので人生の価値は決まらないし、現実の俺はかなりぱつとしないポジションなわけだけど。

とにかく、俺は朝日の昇る瞬間の、あの感じが好きなんだ。

正直朝刊配達の月7万の月給だけで生活するのって、それなりに大変ではある。

家賃3万5千円、光熱費1万くらい、電話代とネット代で4千円ちよつと、食費は一食50円以内になるべく抑えて、月の食費と雑費を合わせて1万円以内に収める感じで、残りが交際費で、そのまた残りが貯金。

服は二十歳くらいの頃に買ったやつを延々着まわしてるし、携帯は持っていない。

洗濯機はないから、服は概ね風呂で石鹸で洗う。

でもめんどくさいから、下着と靴下以外はあんまり洗わない。

不潔ではあるけど、まあ死ぬわけじゃない。

ひたすら3パック59円の納豆だとか、47円の豆腐だとか、39円のもやしだとか、あとは半額処分品のお惣菜だとか、そんなものばかりを食べてるよ。

そりゃあ時々いいものを口にすると「やべえなこりゃ、こんな食べ物がこの世に存在したのか」って感動するけど、そういうのを毎日食べたいとはあんまり思わない。

基本的に納豆とか豆腐とか味噌汁とかが一番好きなんだ。

ギター弾いたりパソコンしたりしてれば、金なんてかけなくても時間はいくらでも潰せるし、街に出ればどこかしらで誰かしらと会う。誰もいなければギター持って突っ立ってれば誰かしら通る。

大変な部分はあるけど、やってけないわけじゃない。

それにさ、どんな人生を生きたって、きっとそれなりには大変なんだ。

月30万稼いでる人も、100万稼いでる人も、みんなそれぞれの立場で、相応の苦労やら悩みを抱えてるわけじゃんね。

そりゃあ多くの人は「50万稼げる苦労」を選ぶだろうけど、俺はあんまり余剰なお金とか潤いに頓着を抱けない人間だし、夕暮れ時の気分がいい時に仕事があって歌いにいけないとか、そっちのほうに気が持ちが滅入っちゃうから、こういう生活を選んでるだけ。仕事にはなるべく理念をもってやりたいから、歌いに行くために仕事さぼるってわけにもいかないしね。

「なんでそんな修行僧みたいなお生してるの？」なんて時々聴かれるけど、ほんとにね、大してお金なんてかからないんだよ。

哀れむ目で見られる事もあるけど、同情だって必要ないんだよ。だって俺は好きで、自分の責任でこういう生活を選んでしてるんだからさ。
別に不幸なわけじゃない。

まあ、見当違いの同情だろうが、何かくれるっていうなら、貰えるものは何でも貰っちゃってるけどね（笑）

見当違いでもなんでも、彼にとってそれは心からの同情で、俺へ対するいたわりの気持ちなんだ。

撥ねつけるより、ありがとうって言って受け取った方が、お互い笑えるじゃん。

そーいうのってさ、大事だよ。

嘘も詭弁も、上辺もさ、やっぱ大事だよ。

誰かと笑って暮らすためにさ。

真実とか、信念とかはさ、本当に心の奥底に、ただ静かに流れてればいいと思うんだよ。

朝刊配達してるとき、毎日朝日を拝むわけだよ。

今の季節はほんと空気が透き通ってて、空が藍色のガラス細工みたくいで、藍色の底に小さいオレンジが落ちてさ、ちよつとずつ広がって、気づいたら朝だよ。

友達がさ「AM4時は、まだ昨日さ」なんて歌をうたってたんだ。俺、彼が何を言ってるのか分かるよ。

この、オレンジが今日の最初を告げるんだ。

だから真つ暗なAM4時はまだ昨日。

昔からそう感じてたし、今でもそう思うよ。本当に。

で、朝が来る頃、あの家この家にさ、もう一つの朝の合図をとどけるわけだ。

ぶっちゃけ新聞の内容になんて俺は興味ないよ。

どの新聞社も自分たちの都合で偏った事ばかり書いてる。でもそんなのはどうだっていいんだ。

朝さ、目覚まし時計の音でしっかり起きれなかった子供を母親が起こして、子供が眼を覚ますと、目玉焼きの匂いがして、自分の部屋のドアを出て、冷たい廊下をぺたぺた歩くとさ、新聞片手に親父が座ってるんだ。

おはようって言ったたら、おはようって返って来る。

目は新聞に落としたままでさ。

これってさ、いいじゃん。

だから俺は朝刊配達員をしてるんだ。

俺が毎朝皆様んちのドアのポストにねじ込んでるのは、わけのわからない文字の羅列が記された紙の束じゃない。

朝の情景を彩る、ただのちよつとしたオブジェだよ。

でも、大事なオブジェだ。

本気で俺はそう思ってるし、小さい頃、親父が新聞読んでる姿みて、そう思ってたから、だから俺はこの仕事に誇りを持つてる。

で、誇るべき偉大な仕事を終えてさ、俺は朝の6時には家に帰って、

今日1日を何に使うか、ちょっとだけわくわくしながら考えるんだ。
納豆ごはん頬張りながらさ。

昼寝して起きたらもう夕方、なんて日もわりとあるけどさ。
でも悪くないよ。

夕日が沈むころ、風呂入って、飯食って、またギター担いで駅前まで歌いに行つて、大抵誰かが通つて、テキストに話して、半額処分のお惣菜とか豆腐とか買って、帰ってきて、パソコンやって、ゲームして、友達から電話かかってきて、寝て、起きて、また新聞配りに行く。

悪くないよ。

今日なんかは月に3度のお休みなんだけどさ、やっぱりこう、つい起きちゃっわけだね。

さて今日は何をしようかな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1896p/>

AM 4時はまだ昨日さ

2010年11月28日08時26分発行